

科目名	解剖生理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	佐藤 敦子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	言語聴覚学科(昼夜間) 1年						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる解剖生理学に関する知識・技能・態度を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					人体の発生に関する基本的概念が説明できる。	
	○					人体の構造と機能に関する基本的概念が説明できる。(細胞と組織・情報伝達・各器官系)	
	○					運動・感覚機能、呼吸、循環に関する基本的概念が説明できる。	
	○					睡眠と脳波、消化と吸収、体液調整と尿排泄に関する基本的概念が説明できる。	
○					内分泌、生殖器に関する基本的概念が説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:言語聴覚士のための解剖・生理学 医歯薬出版株式会社 小林靖, 参考書 ブルーボックス 新しい人体の教科書(上・下)/山科正平						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	解剖学・生理学の概要			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	2	細胞、遺伝子とその発現、細胞分裂、組織とその働き			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	3	血液の成分、血球、免疫機能			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	4	骨の構造、骨化の様式、骨の連結、関節の構造、関節の種類			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	5	人体の発生(女性の性周期、妊娠から着床、胞胚の発育、三胚葉)			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	6	中枢神経系、脊髄、脊髄神経、反射、脳幹(中脳、橋、延髄)			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	7	脳神経、小脳、間脳、終脳(大脳皮質・髄質、大脳基底核)			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	8	神経の伝導路(上行・下行性伝導路)、脳波と睡眠、自律神経系			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	9	循環器系(心臓、血管の構造と機能、リンパ系)			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	10	呼吸器系(鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、呼吸運動)			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	11	泌尿器系(体内の液体成分、腎臓、尿管、膀胱、尿道)			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	12	消化器系(口腔、歯、舌、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、膵臓、腹膜)			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	13	内分泌系(下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎)・生殖器系(精巣、卵巣)			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	14	筋系(骨格筋の構造、体幹の筋、上肢・下肢の筋、頭頸部の筋)			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
	15	感覚器系(嗅覚、皮膚感覚、固有感覚、視覚、聴覚、平衡覚、味覚)			授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を別に実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎				70%
	課題提出(15回)				◎		30%
履修上の注意							

科目名	病理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	自見 至郎		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年						
授業概要	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学は、病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになることを最終目標とする。細胞の機能の理解や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになることを目的とする。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
	○	○				様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
	○	○				細胞の機能の理解や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院 系統看護学講座 病理学(疾病の成り立ちと回復の促進1)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	細胞・組織・器官・病理学概論(病因と組織変化)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	内因と外因・病気の分類・先天異常、遺伝子・染色体異常				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	代謝障害と細胞および組織変化(変性と壊死)・脂質、タンパク質代謝障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	タンパク質代謝における肝臓と腎臓の役割・ビリルビン代謝障害、				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	循環障害(充血、うっ血、貧血、虚血・血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	炎症、免疫、アレルギー				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	免疫不全、移植				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	腫瘍 まとめ				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	基礎医学講座 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	永江 信吾		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年生						
授業概要	2年後の国家試験に向けて、学習方法の習得を目指す。国家試験では、言語聴覚士テキストからも出題される。早期から言語聴覚士テキストに触れる目的でテキストの読み込みを行う。テストを行い、覚えてない単語を確認し各科目で確認をする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国家試験の勉強法を習得することができる。	
			○			言語聴覚士テキストを読み込み、分からない言葉を列挙し、調べることができる。	
	○					授業で行った内容について、問題を作ることができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:大森孝一ほか「言語聴覚士テキスト第3版」医歯薬出版株式会社、2018 参考図書:国家試験過去問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	国家試験勉強法の説明/プレテスト				これからの行動目標を立ててみる。次回の授業内容の箇所を読んでおく。(1時間)	
	2	STテキストに触れる 医学総論の読み込み・小テスト				復習は30分。予習として、次回の授業内容の箇所を読んでおく。復習と予習で1時間	
	3	STテキストに触れる 医学総論の読み込み・小テスト				復習は30分。予習として、次回の授業内容の箇所を読んでおく。復習と予習で1時間	
	4	STテキストに触れる 解剖・生理学の読み込み・小テスト				復習は30分。予習として、次回の授業内容の箇所を読んでおく。復習と予習で1時間	
	5	STテキストに触れる 解剖・生理学の読み込み・小テスト				復習は30分。予習として、次回の授業内容の箇所を読んでおく。復習と予習で1時間	
	6	STテキストに触れる 病理学の読み込み・小テスト				復習は30分。予習として、次回の授業内容の箇所を読んでおく。復習と予習で1時間	
	7	STテキストに触れる 病理学の読み込み・小テスト				復習は30分。予習として、次回の授業内容の箇所を読んでおく。復習と予習で1時間	
	8	ST2年生との交流会				交流会の感想を書く	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で小テストを6回実施する。(2)分からない言葉・覚えることができなかつた言葉をノートにメモをとる宿題を課します。毎回授業前に提出をする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	STテキストテスト	◎					50%
	宿題・レポート	◎					50%
履修上の注意							

科目名	内科学系(内科学・小児科学)						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	伊佐勝典・大久保史子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて医師として勤務(伊佐) 病院にて医師として勤務(大久保)		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年						
授業概要	基本的な医学知識を基に、内科疾患の基本的病型や病態、症状を知る。また各器官の代表的な疾患について理解し、臨床でのリスク管理などについて理解できる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基本的内科疾患の病型・病態・症状について分類することができる。	
	○	○				各器官の代表的な病型・病態・症状について分類することができる。	
	○	○				言語聴覚士として触れる患者さまのリスク管理について説明することができる。	
	○	○				小児疾患について基本的な考え方を説明することができる。	
○	○				小児の身体的特徴と働きについて理解するとともに、疾患の特徴を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:コメディカルのための専門基礎分野テキスト内科学、中外医学社 教科書:言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学、医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	内科学総論				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	2	循環器の構造と機能、代表的疾患				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	3	腎臓・泌尿器の構造と機能、代表的疾患				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	4	消化器の構造と機能、代表的疾患				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	5	肝・胆・膵臓の構造と機能、代表的疾患、代謝性疾患				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	6	内分泌疾患・感染症・寄生虫疾患				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	7	自己免疫疾患・膠原病				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	8	血液疾患・中毒性疾患				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	9	小児科学概論				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	10	新生児・未熟児疾患				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	11	先天異常と遺伝病				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	12	心身症・神経症・重症心身障碍児				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	13	小児神経・筋・骨系疾患				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
	14	小児循環器・呼吸器系疾患				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)	
15	小児その他の疾患				授業に該当する教科書の部分について復習すること(60分)		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト	○	◎				30%
履修上の注意							

科目名	精神医学系(精神医学・老年医学)						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	諸江 健二		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	精神科クリニックにて医師として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年						
授業概要	精神医学の一般の知識、個々の疾患の精神病理、臨床像、治療について、医療従事者として最低学ばねばならない事柄を身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神疾患の分類と機能評価について概要が説明できる。	
	○	○				三大精神病の概要が説明できる。	
	○	○				発達障害についての概要が説明できる。	
	○	○				診断基準についての概要が説明できる。	
	○	○				器質性精神障害についての概要が説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:奈良 勲/鎌倉 矩子. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野精神医学. 医学書院、 参考文献:加藤 正明. 精神科ポケット辞典. 弘文堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	精神疾患の分類と精神機能の評価				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。	
	2	統合失調症				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。	
	3	気分障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。	
	4	心因性疾患(神経症・心因反応、心身反応を含む)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。	
	5	生理的、行動の障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。	
	6	器質性精神障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。	
	7	発達障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。	
	8	操作的診断				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分程度復習しておく。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				100%
履修上の注意							

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	神野 哲平		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	歯科医として病院勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部1年						
授業概要	歯科疾患や口腔疾患の病態を理解し、口腔機能障害に対する歯科的治療法を学び、歯科医師と言語聴覚士との協働・連携および多職種におけるチーム医療について学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				歯科医学の概要について説明できる。	
	○	○				各歯科疾患の発現機序について理解し、症状について説明できる。	
	○	○				口腔ケアの技法について理解し説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚士のための基礎知識「臨床歯科医学・口腔外科学」(医学書院)言語聴覚士に必要な歯科の知識(インテルナ出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	歯科医学概論 歯科医学の歴史と重要性について				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	2	歯・歯周の疾患について				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	3	う蝕および歯髄炎と根尖性歯周炎について				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	4	歯質および歯の欠損と不正咬合について				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	5	口腔・顎・顔面の異常と外傷について				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	6	口腔・顎の炎症と嚢胞について				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	7	神経疾患と中枢性疾患および加齢による口腔機能障害について				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	8	歯科口腔外科の治療法および口腔ケアについて				教科書と配布プリントをもとに復習する	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	神経系医学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	工藤 康介		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	言語聴覚士として病院勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年						
授業概要	中枢神経系のしくみの基礎を理解しアウトプットできる。 障害の基礎を理解しアウトプットできる。 国家試験の問題が解けるようになる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				国家試験問題を解くことができる。	
	○	○				神経系の構造を理解できる。	
	○	○				神経系の機能を理解できる。	
	○	○				小テストに合格することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医療情報科学研究所.病気がみえる〈vol.7〉脳・神経.メディックメディア						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業説明、シラバス提示、神経系全体像、大脳の構造				授業の復習を30分実施。	
	2	大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核、間脳、脳幹、小脳				授業の復習を30分実施。	
	3	脳動脈系、脳室系、脳脊髄液の循環				授業の復習を30分実施。	
	4	脳血管障害、脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、頭部外傷				授業の復習を30分実施。	
	5	運動と感覚、錐体路、運動の異常、脊椎・脊髄疾患				授業の復習を30分実施。	
	6	反射、運動の調節、歩行障害、錐体外路				授業の復習を30分実施。	
	7	感覚、感覚障害、自律神経系				授業の復習を30分実施。	
	8	脱髄性疾患、多発性硬化症、神経変性疾患、筋疾患				授業の復習を30分実施。	
	9	感染症、末梢神経障害、筋疾患・神経筋接合部疾患				授業の復習を30分実施。	
	10	脳神経 (I から III)				小テストの準備を30分以上実施。	
	11	脳神経 (IV から VII)				授業の復習を30分実施。	
	12	脳神経 (VIII から XII)				授業の復習を30分実施。	
	13	意識障害、不随意運動				授業の復習を30分実施。	
	14	神経診察の全体像				授業の復習を30分実施。	
15	授業内評価				授業の復習を30分実施。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを1回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				70%
	小テスト	○	○				30%
履修上の注意							

科目名	生涯発達心理学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	福島志津		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科(昼夜間) 1年						
授業概要	出生後から幼児期までの発達の様子と理論を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				発達の基本概念が説明できる	
	○	○				青年期までの発達の基本概念と主要理論を説明できる	
	○	○				青年期以降の認知・心理の特徴と主要理論を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 言語聴覚士のための心理学 第2版 (医歯薬出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	発達の概念とは			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	2	発達の規定要因			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	3	発達理論(ポルトマン、フロイト、エリクソン)			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	4	発達理論(ピアジェ)			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	5	乳児の知覚・認知の発達			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	6	乳児の運動発達			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	7	乳児の愛着の発達			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト		
	8	幼児・児童期の遊びと認知機能の発達			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	9	幼児・児童期の自己、他社認知の発達と仲間関係			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	10	保育・学校教育と発達			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	11	青年期の親子関係・友人関係			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	12	青年期の自我同一性			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	13	成人期の職業生活、家族生活			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	14	老年期の知的機能と死への対応			クラスシーで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)		
	15	定期試験			講座全体を振り返り、試験対策を行う(60分)		
評価方法	(1)小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				30%
履修上の注意							

科目名	言語学						
科目名(英)	elementary Linguistics						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	高井 岩生		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学にて言語学の研究に従事		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年生						
授業概要	言語聴覚士として臨床の現場で活躍する際に、最低限必要な言語学的な知識の習得を目指す。具体的には、音声、形態、統語の3分野に関する基礎的な知識を身に付けてもらいたい。今後、構音障害や言語発達上の要支援者の症例に関する研究を理解するときの基になる考えに慣れてほしい。また、随時、各項目の国試対策の折り込んでいく。						
授業形式	講義：◎	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					音素、異音、超分節音を理解し、音韻的な規則を基にして音韻現象を説明できる。	
	○					自由・拘束形態素の概念を基にして、個々の語の生成の仕組みを説明できる。	
	○					項と付加詞、意味役割、格などの概念を理解し、個々の述語の項構造を説明できる。	
	○					階層構造、文生成の仕組みを理解し、文産出及び文理解のモデルを説明できる。	
	○					言語的意味と発話の意図を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書は使用せず。プリントを配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	調音の仕組みとIPA			IPA表を見直しておくこと		
	2	音声と音素の違い、日本語の音素、異音の2つのタイプ			授業時に配布したプリントとSTテキストの音韻論の項目を見直しておくこと		
	3	超分節音(音節の構造、モーラの構造)			授業時に配布したプリントとSTテキストの音韻論の項目を見直しておくこと		
	4	超分節音(アクセントの規則、イントネーション)			授業時に配布したプリントとSTテキストの音韻論の項目を見直しておくこと		
	5	自由・拘束形態素、語の成り立ち、単純語と合成語			STテキストの形態論の項目を見直しておくこと		
	6	屈折・派生接辞、派生語と複合語			授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと		
	7	活用語の仕組み、活用語の生成			授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと		
	8	異形態の5つのタイプ			授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと		
	9	項と付加詞、項構造、意味役割			STテキストの統語論の項目を見直しておくこと		
	10	格の働き、格交替			授業時に配布したプリントとSTテキストの統語論の項目を見直しておくこと		
	11	文構造の生成			授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと		
	12	言語獲得、動詞の島仮説、普遍文法モデルと用法基盤モデル			授業時に配布したプリントとSTテキストの形態論の項目を見直しておくこと		
	13	ボイス、アスペクト、テンス、モダリティ			STテキストの統語論の項目を見直しておくこと		
	14	言語的意味と使用意味、談話、推論			STテキストの意味論・語用論の項目を見直しておくこと		
15	対人関係構築からみたコミュニケーション			STテキストの意味論・語用論の項目を見直しておくこと			
評価方法	定期試験の結果を重視する。ただし、適時小テストを実施し、その結果も加味する。定期試験は40問のマークシート形式であり、出題形式や内容は国試に準じる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	小テスト	○					20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	音声学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	増田 正彦 今村 亜子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	声学研究に従事/小児施設にて言語聴覚士		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年						
授業概要	言語聴覚士として臨床の現場で活躍する際に、最低限必要な音声学的な知識の習得を目指す。 日本語の音声および音韻の特性や文字表記の基本概念について学ぶ						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					音声の基本概念について説明できる。	
	○					日本語の音声および音韻の特性について説明できる。	
	○					日本語の文字表記の基本概念について説明できる。	
	○					超文節的要素について説明できる。	
	○					言語聴覚士として必要な音声学の知識を列挙する	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 三省堂 日本語音声学入門 協同医書出版 構音訓練に役立つ 音声表記・音素表記 記号の使い方ハンドブック 医学書院 言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	音声の種類、音声器官				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	2	子音①:分類方法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	3	子音②:声門の状態				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	4	子音③:調音位置				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	5	子音④:調音方法1(阻害音)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	6	子音⑤:調音方法2(共鳴音)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	7	子音⑥:二次的調音				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	8	子音⑦:日本語の子音				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	9	子音⑧:子音の交替				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	10	母音①:母音の分類方法				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	11	母音②:母音の交替				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を20分程度復習する。	
	12	臨床との関係性を知る				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を31分程度復習する。	
	13	臨床との関係性を知る				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を32分程度復習する。	
	14	臨床との関係性を知る				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を33分程度復習する。	
	15	臨床との関係性を知る				まとめと試験に向けての学習	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する(増田担当)。(2)定期試験(筆記)を実施する(増田担当)。(3)臨床との関係に関するレポート課題3回実施する(今村担当)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	小テスト	○					20%
	宿題・レポート	○					30%
履修上の注意							

科目名	言語発達学						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	福島 志津		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年						
授業概要	小児の言語発達について学習し、前言語期から学童期以降までのコミュニケーション行動や言語発達の過程を理解する						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語発達の基本手概念について説明できる	
	○	○				言語発達の各期の概要について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	医学書院 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	言語発達の基本的概念 (言語発達と脳の発達、臨界期)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	2	言語発達の基本的概念 (言語獲得と聴覚系・発声発語系の関連)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	3	言語発達の基本的概念 (コミュニケーション、語音認知、構音の発達)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	4	言語発達の基本的概念 (語彙、統語、語用、読み書きの発達)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	5	言語発達の基本的概念 (言語獲得理論)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	6	前言語期の発達 (音声知覚と音声表出)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	7	前言語期の発達 (コミュニケーション能力の発達)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	8	幼児期前半の言語発達 (音声知覚と音声表出)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	9	幼児期前半の言語発達 (コミュニケーション能力の発達)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	10	幼児期後半の言語発達 (言語理解の発達)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	11	幼児期後半の言語発達 (言語表出の発達)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	12	児童期の言語発達 (言語理解、言語表出、読み書きの発達)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	13	青年期以降の言語発達 (青年期から老年期までの特徴と問題)				Formsで振り返り課題を実施 小テスト対策(30分)	
	14	まとめ (定期試験対策シートの作成)				Formsで振り返り課題を実施 定期試験対策(60分)	
	15	授業内評価(筆記試験)				授業内評価の振り返り(60分)	
評価方法	(1)小テストを毎回実施する。(2)授業内評価(筆記試験)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				30%
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション概論						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	永江 信吾		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部1年生						
授業概要	リハビリテーションという言葉は、一般社会でも非常に使われるようになった。単に訓練を行い、機能回復のみを行うのではない。リハビリテーション本来の理念、基本的知識を修得する。模擬体験を通じて、生活の困難さを体験する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				リハビリテーションの理念と概念について説明できる。	
	○	○				国際生活機能分類(ICF)と国際障害分類(ICIDH)の特徴と相違が説明できる。	
	○	○				医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関わり方について説明できる。	
	○	○				リハビリテーションの過程と方法について概説できる。	
			○			グループディスカッションや発表を通して、新たな気づきを得ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	・診断と治療社 PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 要点整理と用語解説 改定第3版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハビリテーションのイメージを共有			各自で新たな気づきを追記しまとめる(30分)		
	2	障害について考える			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	3	リハビリテーションの理念と概念、歴史			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	4	リハビリテーションの領域と大切にしたいこと			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	5	生理的な老化と病的老化の違いとは。			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	6	廃用症候群って何だろう。			教科書や配布資料を読み返す(31分)		
	7	理学療法士とリハビリテーション			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	8	理学療法士とリハビリテーション			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	9	作業療法士とリハビリテーション			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	10	作業療法士とリハビリテーション			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	11	国際生活機能分類と国際障害分類			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	12	自分のこれからの目標と行動計画を立ててみよう			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	13	自分のこれからの目標と行動計画をICFを使って作成・発表			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
	14	車いすについて知る 車いすで自動販売機やトイレを使ってみよう			教科書や配布資料を読み返す(30分)		
15	定期試験・リハビリテーションのイメージを再考する			試験対策のまとめを行う(30分)			
評価方法	(1)定期試験(筆記)(2)振り返りの課題(3)小テストを実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					60%
	振り返り課題	○					20%
	宿題・レポート				○		20%
履修上の注意							

科目名	言語聴覚臨床の基礎									
科目名(英)										
単位数	1	時間数	45時間	担当者	灘吉享子・小川春美					
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務					
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間1年									
授業概要	言語聴覚士の仕事について概要を理解し、われわれが専門とする言語聴覚障害についての大枠を知る。そのうえで、いくつかの障害概論を学び、言語聴覚士の役割についてイメージする。また、実際に現場の言語聴覚士から話を聞いたり、当事者の方々の話を聞くことで自分自身が進もうよしている、仕事の実感を理解することを目指す									
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				言語聴覚士の仕事について業務の実感を説明することができる				
	○	○				言語聴覚障害のいくつかの種類について言語・コミュニケーション過程から説明できる。				
	○	○				言語聴覚障害の枠組みを理解し、いくつかの言語聴覚障害の原因・疫学・主要症状を概説できる。				
	○	○		○		言語聴覚士や当事者の話を聞き、対人援助を行う上で大切な心がまえについて説明できる				
	○	○		○		毎回の振り返りシートを通して理解を深め、期限どおりに提出することができる				
テキスト・教材 参考図書	改訂 言語聴覚障害総論 I 倉内 紀子 編著 建帛社 学校法人 麻生塾 GCB I 感謝心と思いやりの教育・GCB II 志の教育									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	言語聴覚士の仕事				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	2	言語聴覚障害入門(コミュニケーション過程)				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	3	言語聴覚障害入門(言語聴覚障害とは)				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	4	言語聴覚士の職業倫理				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	5	高次脳機能障害の概論				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	6	失語症の概論				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	7	発話障害の概論				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	8	摂食嚥下障害の概論				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	9	吃音・流暢性障害の概論				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	10	言語発達障害の概論				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	11	言語聴覚士の仕事について(小児編)				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	12	言語聴覚士の仕事について(成人編)				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	13	当事者の方々からお話を聞く				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	14	11~13のうちひとつの経験を選択し体験発表				本日の内容について復習30分 振り返りシートへの記入				
	15	授業内評価				事前学習をしておくこと。事後には内容を振り返りまとめておくこと				
	16	グローバル・シティズンを目指す				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始ときにおける振り返りスピーチに取り組む				
	17	より良い人間関係の構築に向けて				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始ときにおける振り返りスピーチに取り組む				
	18	マナーの本質				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始ときにおける振り返りスピーチに取り組む				
	19	グローバル・シティズンとしての日常・目標				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始ときにおける振り返りスピーチに取り組む				
	20	グローバル・シティズンと志				テキストと講義資料にて30分復習。次回講義開始ときにおける振り返りスピーチに取り組む				
	21	私の志とは				テキストと講義資料にて30分復習。他者の意見も確認しディスカッションできるようにしておく。				
	22	伝える力の実践(グループディスカッション・発表)				テキストと講義資料にて30分復習。他者の意見も確認しディスカッションできるようにしておく。				
	23	まとめ(授業振り返りシートの作成)				講義内容を振り返り資料整理、要点把握を行う。				
評価方法	(1)小テストを複数回実施する。(2)レポート作成を複数回実施する。(3)STや当事者の方からのお話しにおいて、積極的な発言をする 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	○				60%			
	小テスト	◎	◎				10%			
	宿題・レポート	○	◎		◎		20%			
発表・作品				◎		10%				
履修上の注意										

科目名	失語・高次脳機能障害の理解						
科目名(英)	Comprehension of Aphasia and Higher brain dysfunction General remarks						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	小川 春美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年						
授業概要	失語症及び高次脳機能障害関しての基本的知識について学ぶ。 失語症を含めた高次脳機能障害の種類や脳損傷領域との関連についての知識を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				失語症および高次脳機能障害の概要について説明できる。	
	○	○				失語症および高次脳機能障害が生じる疾患や要因について理解できる。	
	○	○				失語症および高次脳機能障害と脳損傷領域との関連について理解できる。	
	○	○		○		国家試験の問題に取り組み説明することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	・医学書院 藤田郁代 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 2021 ・ナツメ社 小嶋知幸 やさしくわかる言語聴覚障害 2016						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	高次脳機能障害 基本的概念			テキストの該当項を30分読んでおく。		
	2	高次脳機能障害に関する脳機能・神経基盤			資料、テキストの該当項を30分復習しておく。		
	3	高次脳機能障害の実態、リハビリテーション			資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく		
	4	高次脳機能障害 背景症状 意識障害、注意障害			資料、テキストの該当項を30分復習しておく。		
	5	失語症			資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく		
	6	失行、行為・行動の障害			資料、テキストの該当項を30分復習しておく。		
	7	失認と関連症状			資料、テキストの該当項を30分復習しておく。内容確認を中間期小テストで実施するので、復習しておく		
	8	半側空間無視	中間期小テスト		資料、テキストの該当項を30分復習しておく。		
	9	記憶障害			資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく		
	10	前頭葉症状 遂行機能障害			資料、テキストの該当項を30分復習しておく。		
	11	認知症			資料、テキストの該当項を30分復習しておく。 確認テストを実施するので、復習しておく		
	12	脳梁離断症候群			資料、テキストの該当項を30分復習しておく。		
	13	認知コミュニケーション障害 脳外傷・右半球損傷			資料、テキストの該当項を30分復習しておく。		
	14	高次脳機能障害の評価 症例提示			定期試験に向け、資料、テキスト、小テストの内容を確認し、復習しておく		
15	まとめ 単元テスト			前期試験 内容の振り返り			
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回(中間期)、前期期間内で確認テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					70%
	小テスト・単元テスト	○			○		30%
履修上の注意							

科目名	知的障害・脳性麻痺・後天性障害の理解						
科目名(英)	Intellectual disability,Cerebral palsy,Acquired disorders						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	相浦満津子・浅田里美・若山恵		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	小児施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科(昼夜間部) 1年						
授業概要	知的障害・脳性麻痺・後天性障害の基本的概念と知識を習得する 知的障害・脳性麻痺・後天性障害の順に学習し、それぞれの関連を学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				知的障害・脳性麻痺・後天性障害の定義を説明できる	
	○	○				知的障害・脳性麻痺・後天性障害の診断基準を説明できる	
	○	○				知的障害・脳性麻痺・後天性障害の症状を複数の観点から説明できる	
	○	○				各疾患で言語発達障害が生じる原因と発症メカニズムを推論できる	
	○	○				当事者、家族、関係者の心理を概説できる	
テキスト・教材 参考図書	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 藤田郁代(監) 医学書院 言語聴覚療法シリーズ 改訂 言語発達障害 I 大貝茂(編著) 建帛社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	知的障害の概要(定義と原因及び診断基準)			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)		
	2	知的障害の言語発達の特徴			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)		
	3	知的障害の言語発達領域の症状(認知領域)			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)		
	4	知的障害の言語発達領域の症状(コミュニケーション)			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)		
	5	知的障害の言語発達領域の症状(語彙、文法など)			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)		
	6	知的障害の言語発達領域の症状(発声発語、読み書き)			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)		
	7	ダウン症の言語発達			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)		
	8	脳性麻痺の概要(原因と定義)			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)		
	9	当事者、家族、関係者の心理の理解(事例検討)			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)		
	10	脳性麻痺の言語発達領域の症状(コミュニケーション、発声発語など)			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)		
	11	脳性麻痺の言語発達領域の症状(認知など)			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)		
	12	脳性麻痺の言語発達領域の症状(摂食機能と摂食機能の発達)			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(30分)		
	13	後天性障害の概要(定義と発症する疾患の種類)			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(31分)		
	14	後天性障害の言語発達領域の症状			該当箇所の予習と、講義後の復習をすること(32分)		
	15	まとめ			講座全体を振り返り試験対策につなげる(60分)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。<浅田・相浦> (2)事例検討レポートを実施する。 <若山> 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験<浅田>	◎	○				80%
	小テスト(4回)<浅田>	○	◎				20%
	定期試験<相浦>	◎	○				70%
知的障害小テスト(6回) <相浦>	○	◎				30%	
履修上の注意	評価方法については浅田先生を4割、相浦先生を4割、若山先生を2割で計算し、最終的に合算します。						

科目名	聴覚障害の理解						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15	担当者	星子隆裕		
実施年度	2022	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 1年						
授業概要	言語聴覚障害および言語聴覚臨床について学修する上で基礎となる人体のしくみ・疾病と治療に関する知識・技能・態度を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				聴覚の機能を説明できる	
	○	○				聴覚障害のもたらす影響について説明できる	
	○	○				聴覚障害を持つ方のコミュニケーションの手段を説明できる	
	○					子どもの聴覚の発達を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:藤田郁代(監)「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版」医学書院、2020						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	聴覚の機能とその障害				受講内容をA4用紙1枚にまとめ、次回受講時に提出する(30分)	
	2	聴覚障害の影響とライフステージ				受講内容をA4用紙1枚にまとめ、次回受講時に提出する(30分)	
	3	聴覚障害の歴史				受講内容をA4用紙1枚にまとめ、次回受講時に提出する(30分)	
	4	単元テストと振り返り				単元テストを全問正解になるまで繰り返し行う	
	5	聴覚障害のリハビリテーション				受講内容をA4用紙1枚にまとめ、次回受講時に提出する(30分)	
	6	成人聴覚障害のリハビリテーション				受講内容をA4用紙1枚にまとめ、次回受講時に提出する(30分)	
	7	小児聴覚障害のリハビリテーション				受講内容をA4用紙1枚にまとめ、次回受講時に提出する(30分)	
	8	単元テストと振り返り				単元テストを全問正解になるまで繰り返し行う	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で単元テストを2回実施する。(2)まとめレポートを6回実施する。 (3)授業への参加状況(グループワーク時の発言)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	単元テスト	◎	◎				80%
	まとめレポート				○		10%
	参加状況				○		10%
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合、評価対象とならない						